

学生生活を振り返って

看護学科第41期生 今井 瑞恵

看護学科に入学し3年が過ぎ、いよいよ卒業を迎えます。



准看護学科からの進学だったため5年間という長い学生生活でした。勉強と仕事と家庭の事、子供の事と忙しい5年間でした。特に最終学年であったこの1年は、実習と仕事、国試に向けた学習と、忙しさに加え不安の多い年でした。5月から実習が始まると、それまでの生活スタイルは一変し、事前学習や実習記録、日々の追加学習などやるべき事が多く、学習の時間の確保に苦労しました。実習では学習が不足すると、受け持ち患者さんに影響してしまうため、翌日に向けてどの点を準備すべきか、必要な学習を見極めて準備することの重要性を感じました。ですが、準備を整えて臨むことで、患者さんにとって必要なケアを、ゆとりを持って行うことができ、自分自身の自信にも繋がりました。さらにその学習を国試へと繋げていくこともできたと思います。

実習中にも分野ごとに国試の過去問なども解いてはいましたが、本格的に国試に向けて学習が始められたのは、すべての実習が終わった12月だったので、試験までに時間が迫っていて焦りと不安が強かったです。過去問や模試の見直し、予想問題などを使い繰り返し学習を行い、また同じ目標に向かうクラスメイトと一緒に学習することでお互いに良い刺激となりました。

無事に試験を終えた今、いよいよ看護師として働くことに期待と不安と緊張を覚えます。ですが、これまでの学生生活での経験を糧に様々な問題にも乗り越えられると信じ、自分の出来る限りの事をやっていきたいと思っています。